

# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

### ●第1回●

若手の対局を並べてみた

この3月に東京に引越し、京都からまたずいぶん遠ざかってしまった。いままでお世話になった珠友誌に恩返しをしたいと思い、高川編集長からの要請もあつて連載を書くことにした。特にテーマは定めず、その時々、の思いを伝えていきたいと思っている。

第1回は、最近成長著しい若手の棋譜を取り上げてみよう。

若手の一番の成長株は、登竜門戦2連覇を達成した高嶋純也二段だろう。さっそくその棋譜を見てみよう。

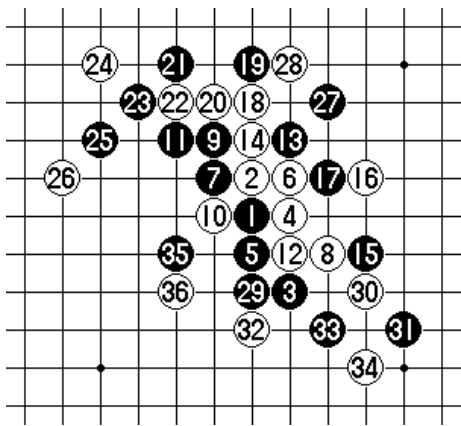
阪神第118号より

黒 二段 高嶋純也

白 二段 格田村一誠

白 36以下満局

白を持つ田村二段格も若手の有望株で、両者とも私



とはすれ違いで対戦はない。(ネットではあるかな?)

山残月共通の防ぎに、黒

11、15は吉澤さんも推薦

している実戦的な打ち方だ。

対する白16はなかなか才能

を感じさせる防ぎ。黒17を

待つて白18だが、ここで黒

19にちよつと異論がある。

確かに白の眠三を叩いて悪

いはずはないが、この形は

白が専守防衛に徹しており

黒は少々無理をしても左辺

で勝ち形を作らないと勝て

ない。

まごまごしていると白に

急所に来られて勝てなくな

る。つまり、このあたりが

勝負のポイントだった。

実戦では一本黒25と引い

て黒27、29と急所に先着し

ており、打ち方としてはま

ったく素晴らしい。しかし、

白36と防がれてみると、こ

れからでは名人をもつてし

ても勝つのは難しくなっ

ている。

普段人の局譜など並べる

ことはめつたにないのだが

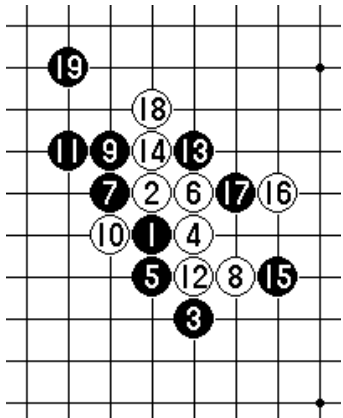
この局を並べていて引っか

かったのがさつきも言った

ように黒19である。ここは、

次のように先に21に打つの

はどうだろう。



浦月の定石にも出てくる

形で、急所である。この形

勢では、ある程度白の勢力

を残してでも黒の好形を作

るのが正しい考え方なので

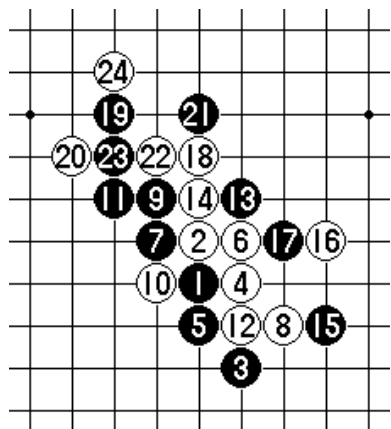
ある。

対して、白はやはり防ぎ

に行かなければならない。

まずは白20と剣先を叩くの

が最も妥当であろう。



こう打ったなら今度は黒

21に叩いておく。19で21に

打つ形との違いは、白24ま

での形を見ればわかる。実

戦では23の場所には白石が入

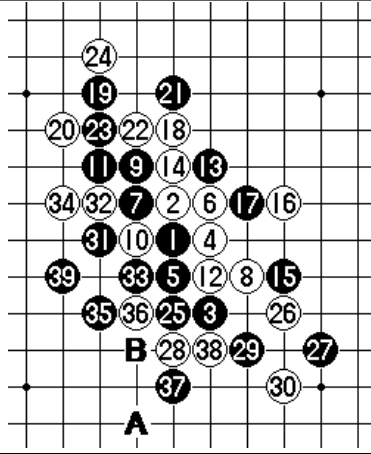
っているのに対して、この形

では黒になつてくる。つま

り、白の防ぎを変えた効果

があるのである。白24が絶

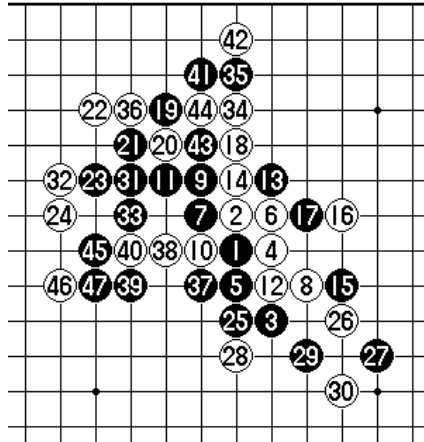
対なのが黒にとって嬉しい。ちなみに白24が反対なら、黒は19と21の間にズバツト引いて勝ちが出る。それから実戦と同じように黒25を効かし、白が同じように防ぐのなら黒31から追い勝ちが発生する。



白34が絶対なものも上辺の効きの効果である。黒39以下四追いと成る。白38をAなら黒Bと引いてよい。

さて、次に白20の変化を研究してみよう。この20はここに黒石は入れさせない手で、下手をすると実戦の形に戻ってしまう。ここは黒21・23ととりあ

えず引いてみるのが良い。白24を待って黒25とやはり一本ここを効かしておく。

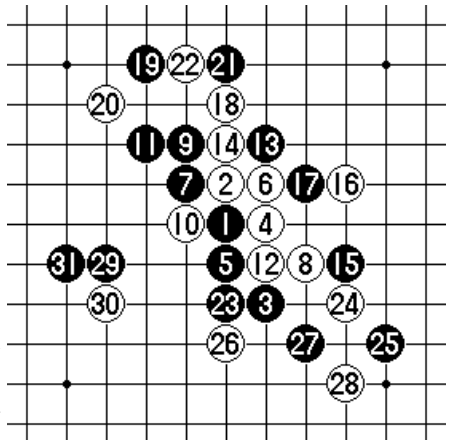


黒31・33と引いたとき、黒34、白43の交換がないのが実戦との違いである。ここに石がないため、白は泣く泣く白34に伸びなければならず、しかも白36から止めなければならぬ。

黒25の黒石が物を言っているから狭いながらも四追いは勝ちとなる。

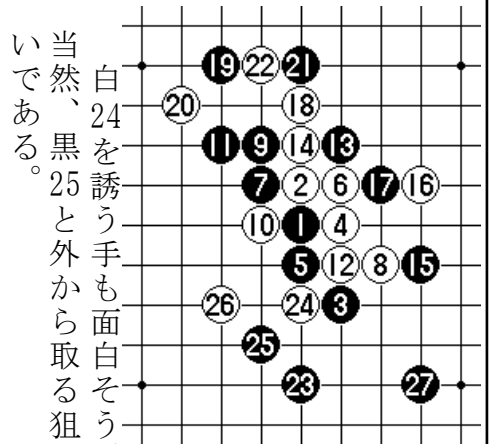
と、ここまで書いてきて、もう一度調べてみると、何と白22と防ぐ手が強い。ここだけ見ればきれいに止ま

っている。

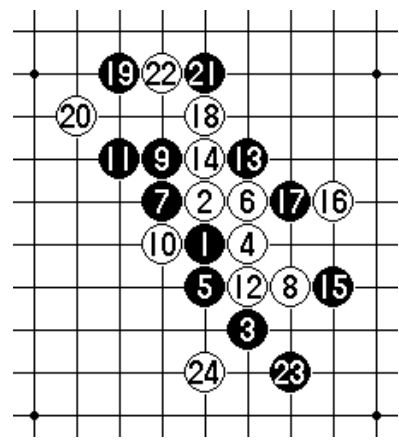


しかし、こういう時は何もせずに効きだけを残しておいた方がよい。とにかく、黒に今一番欲しいのはスペースである。上辺が広ければ、20の一路左に打っておく手もありそうだが、それではいかにも狭い。黒23以下を効かして黒29に展開するのはどうだろうか。白30なら黒31とあくまで外回りに打つ方針である。

また、黒23は当然のようだが、ここにも再考の余地がある。黒23と広く打ち、わざと



白24を誘う手も面白そう。当然、黒25と外から取る狙いである。



黒23と突き出すのもありそう。しかし、白24と防がれては、やはり困る。うん、結局結論が出なかったが、こういう研究がいくつか実を結ぶことも多い。